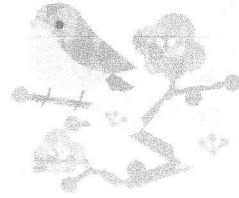




大分すみれ会つうしん



今年も明けて、もはやひと月が過ぎてしまいましたが、皆様如何お過ごしですか？今年もどうぞ宜しくお願い致します。2月入りましたら、やはり寒さは一段と厳しくなっています。寒さに負けず、どうぞお元気でお過ごしください。

今年度の茶話会は、3月が祭日と重なりますので、2月で最後となります。年度末は班長会を開き、来年度の計画など話し合うことになっています。ご意見ご希望などありましたら、メールまたはハガキ、電話でも結構です。お寄せ下さい。

11/21 **みんなねっと福岡大会** に参加しました。

基調講演「地域でともに生きる」高木俊介先生 の講演は、常識を覆す驚きの話でありました。

「薬は役に立つが病気は治っていない」と言われるのです。薬を飲めばおとなしくなるが、暮らしの不安定さは解決されず治っていないとのことです。医師と相談しながら減薬を試み、支援者を広げて当事者が安心して地域の人と一緒に暮らせる社会環境に変えていく必要があるのだそうです。詳しくはプリントをご覧ください。

特別講演「精神障がいリハビリテーション」倉知延章氏

支援者主体から当事者主体のリハビリテーションへ
当事者がどんな人生を送りたいかを見据えての支援が必要だそうです。精神障がいリハビリテーションは、施設や病院でなく、生活の場や働く場で行うものでなければ効果は出ないと言われるのです。

2日目のシンポジウム「未来をひらく、これからの地域ケア」は、会長が参加されて内容をまとめて下さっています。

*みんなねっと福岡大会の内容は、プリントしてお渡ししていますので是非読んでいただきたいと思います。

11/28 心の病を考える地域学習会



「20年後も暮らしていける地域であるために大切なこと」

山内勇人先生

山内先生は、現在佐伯市でご活躍されておられます。

佐伯市は、人口減少が進む中、存続可能な地域づくり、20年後も暮らしていける地域づくりをめざして取り組んでおられます。

そして新たに、高齢者、精神・知的障がい者、ひきこもりの人達をごちゃまぜにして、思いやりのある支援をしていこうというのです。高齢になると誰しなり得る認知症の人ために「オレンジカフェ」「とんとんとん」を始め、楽しい笑いの場を提供しています。

ここは認知症の人に限らず誰でも入れるそうです。

大分にも、こういう場があると良いですね。

来年度の「親睦研修会」は、佐伯訪問というのはいかがでしょうか？

ごちゃまぜ食堂「とんとんとん」を見学してみたいという案が出ています。

＊地域学習会の内容をまとめていただいていますので、プリントをご覧ください。



－ どうすればよかったか？

この映画をごらんになりましたか？

統合失調症の姉と両親の20年を、姉の弟が撮影記録したドキュメンタリー映画です。

両親が娘の病気を認めようとせず、長年にわたり、家に閉じ込め、医療につなげてこなかったことで病状が悪化し、社会から閉ざされた孤立した地獄のような生活が始まるのです・・・

この映画を通して、我が子の発症の頃を思い出しました。我が子が精神を病むだなんてはじめ信じられませんでしたから。認めたくないご両親の気持ちが良く分かる気がしました。

各家庭それぞれ、「どうすればよかったか？」と考えさせられる映画であったと思います。

＊来年度茶話会は通常通り、3週目木曜日 4/16 から始まります

＊年会費をまだ収めておられない方は、年度内にお収めください

基調講演「地域で共に生きる」

たかぎクリニック 高木俊介氏

✧ 精神障がい者の歴史

- ・高度経済成長時代（1955～1973）精神病患者を病院へと囲い込みする国策がとられた。
- ・精神病院の医師や看護師は少なくて良いという制度で、民間の精神病院が増えてきた。
- ・精神病院は、どんどん患者が増えてまるで収容所化し、治療する場ではなかった。
- ・宇都宮病院事件（1984）で患者が職員から暴行され死亡する事件が起き、精神障がい者の人権が守られてない事に対して、国内外から批判をされた。
- ・事件から精神保健法（1987）改正される。人権擁護と社会復帰が促進されることになった。
- *滝山病院事件（2023）患者虐待、死亡退院など問題あり。精神障がい者の人権が守れていない。

✧ 精神科の治療

- ・患者は、薬を飲むとぐったりして落ち着いたと退院するが、薬は役に立つが治っていない。
- ・薬は飲めばおとなしくなるが、暮らしの不安定さの問題（親子関係、親の過干渉、思いを伝えきれないなど）を解決されていなく病気は治っていない。
- ・当事者が変わるためには、他人を信用できること、暮らしの支え（人間関係、お金）があること。

✧ 薬の副作用

- ・ドーパミンを抑える新薬（リースパダール、ジプレキサ）などは、ホルモンのバランスや糖尿病、体重が増えるなどの命にかかわる副作用があるので医者と相談して薬を選ぶこと。
- ・ハロペリドール（セレネース）など、昔からの薬であるが効用は新薬とかわりない。副作用は何もする気が起きない、物忘れになる、頭がまわらない、思っていることが言えないなどがある。

✧ 地域で暮らすこと

- ・仲間づくり、相談体制、何処で暮らすか、親子関係などを改善しながら薬の減量を医者と相談する。
- ・地域の人と一緒に暮らせるように、支援者を広げて、お互いが歩みよることで当事者も楽になる。
- ・地域で暮らす意味は、偶然の出会いがいっぱいあり、当事者が安心できるきっかけがうまれる。

✧ 社会を変える取り組み

- ・精神病とは、こうしなくちゃダメだと社会の規範にあてはめて社会が病気を作り、医者が困ったことに名前をつけている。
- ・薬に頼りすぎて、必要な地域で暮らす本当に必要な支え（仲間づくり、居場所づくり、生活相談親子関係の相談など）まったく行われていないことが日本の精神医療の現状である。
- ・資本主義社会では、人間は労働力とみなされ、物としみなされている。そのために病気で働けない当事者を社会の制度に当てはめようとしてはならない。
- ・当事者が希望をもてる社会かどうかで、社会の方が変わらなければならない。
- ・薬ありきでなく、当事者がどんな悩みを持ち、自分はどう挫折して病気になり、家族関係を認め合ってどう生活していくか、周りの人との信頼関係をどう作れるのかなど、障がいを持ちながらも地域で暮らすための生活しやすい社会環境に変えていく必要がある。